

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		文教大学		設置者名		学校法人 文教大学学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況(平成25年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
教育学部	学校教育課程	250人	小一種免	平成12年度	241人	239人		239人	198人
			中一種免(国語)	平成12年度			39人		
			中一種免(社会)	平成12年度			44人		
			中一種免(数学)	平成12年度			50人		
			中一種免(理科)	平成12年度			17人		
			中一種免(音楽)	平成12年度			13人		
			中一種免(美術)	平成12年度			7人		
			中一種免(保健体育)	平成12年度			40人		
			中一種免(家庭)	平成12年度			22人		
			高一種免(国語)	平成12年度			39人		
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			44人		
			高一種免(数学)	平成12年度			50人		
			高一種免(理科)	平成12年度			17人		
			高一種免(音楽)	平成12年度			13人		
			高一種免(美術)	平成12年度			7人		
			高一種免(保健体育)	平成12年度			40人		
			高一種免(家庭)	平成12年度			22人		
			特支一種免(知・肢・病)	平成19年度			16人		
		心理教育課程	100人	幼一種免	平成15年度	106人	106人	106人	9人
人間科学部	人間科学科	140人	中一種免(社会)	平成12年度	169人	47人		47人	8人
			高一種免(公民)	平成12年度			47人		
			高一種免(福祉)	平成12年度			4人		
	臨床心理学科	120人	中一種免(社会)	平成15年度	123人	7人	7人	4人	
高一種免(公民)	平成15年度	7人							
文学部	日本語日本文学科	130人	中一種免(国語)	平成12年度	133人	59人		59人	35人
			高一種免(国語)	平成12年度			59人		
			高一種免(書道)	平成12年度			19人		
	英米語英米文学科	130人	中一種免(英語)	平成12年度	151人	63人		63人	38人
			高一種免(英語)	平成12年度			63人		
	中国語中国文学科	100人	中一種免(中国語)	平成12年度	116人	1人		1人	人
高一種免(中国語)			平成12年度	1人					
情報学部	情報システム学科	95人	中一種免(数学)	平成19年度	127人	13人		13人	12人
			高一種免(数学)	平成19年度			13人		
			高一種免(情報)	平成15年度			10人		
	情報社会学科	95人	高一種免(情報)	平成26年度	人	人	人	人	
メディア表現学科	95人	高一種免(情報)	平成26年度	人	人	人	人		
国際学部	国際理解学科	120人	中一種免(社会)	平成20年度	125人	29人		2人	13人
			中一種免(英語)	平成20年度			27人		
			高一種免(公民)	平成20年度			2人		
			高一種免(英語)	平成20年度			27人		
健康栄養学部	管理栄養学科	100人	栄教一種免	平成21年度	98人	14人	14人	人	
経営学部	経営学科	165人	高一種免(商業)	平成26年度	人	人	人	人	
入学定員合計		1,640人	合計		1,389人	578人	1,310人	317人	

大学名		文教大学(大学院)		設置者名	学校法人 文教大学学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
言語文化研究科	言語文化専攻 修士課程	10人	中専免(国語)	平成11年度	9人	3人	3人	1人
			中専免(英語)	平成11年度			0人	
			高専免(国語)	平成11年度			3人	
			高専免(英語)	平成11年度			0人	
教育学研究科	学校教育専攻 修士課程	10人	幼専免	平成19年度	4人	4人	1人	1人
			小専免	平成19年度			2人	
			中専免(国語)	平成19年度			1人	
			中専免(社会)	平成19年度			0人	
			中専免(数学)	平成19年度			0人	
			中専免(理科)	平成19年度			0人	
			中専免(音楽)	平成19年度			1人	
			中専免(美術)	平成19年度			0人	
			中専免(保健体育)	平成19年度			1人	
			中専免(家庭)	平成19年度			0人	
			高専免(国語)	平成19年度			1人	
			高専免(地理歴史)	平成19年度			0人	
			高専免(数学)	平成19年度			0人	
			高専免(理科)	平成19年度			0人	
			高専免(音楽)	平成19年度			1人	
			高専免(美術)	平成19年度			0人	
高専免(保健体育)	平成19年度	1人						
高専免(家庭)	平成19年度	0人						
入学定員合計		20人	合計		13人	7人	15人	2人

大学名		文教大学(専攻科)		設置者名	学校法人 文教大学学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
専攻科	教育専攻科 教育学専攻	15人	小専免	平成4年度	8人	7人	7人	5人
入学定員合計		15人	合計		8人	7人	7人	5人

備考

・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。
 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年10月21日（火）

実地視察大学：文教大学

実地視察委員：渋谷治美委員、岩立京子委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する取組について、地域との連携等において積極的な姿勢が見受けられた。教育学部以外にも応用し、教職課程の充実に引き続き努めていただきたい。
- 教育課程について、「2.」で指摘するように、教職課程認定基準の観点から是正すべき点を確認されたため、その点については速やかに是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「人間愛」という全学の理念が教員養成に関する理念、構想は示されているが、具現化するための工夫が確認できなかった。これらの理念、構想を実際のカリキュラムに反映できるよう、努めていただきたい。
- 教職課程を管理、監督する教員養成課程運営委員会を早期に設置した点は評価できる。一方で、当該委員会が実質上の機能を十分に果たしているとは言い難いため、引き続き改善に努めていただきたい。
- 学校教育課程の小一種免と心理教育課程の幼一種免、学校教育課程の小一種免と中高一種免において、専任教員が重複している。教職課程認定基準に抵触しているため、速やかに是正すること。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 学校教育課程の小一種免、心理教育課程の幼一種免の「教職に関する科目」について、教職課程認定基準に準拠しない形で共通開設を行っているため、開設状況を見直すこと。
- 科目区分に即していない授業科目が散見されたため、授業内容と科目区分及び各科目に含めることが必要な事項の整合性をとるよう見直すこと。（例：情報学部情報システム学科の中一種免（数学）、高一種免（数学）について、科目区分「コンピュータ」に開設された科目が数学に関連する内容とは見受けられない。）
- 特別支援教育に関する科目のうち、特別支援教育領域に関する科目の「心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理、生理及び病理に関する科目」について「肢体不自由者の心理」、「肢体不自由者の生理」、「病理者の心理」に関する科目を開設していないため、是正すること。

- 特別支援教育に関する科目のうち、免許状に定められることとなる「特別支援教育領域以外の領域に関する科目」について、言語障害、情緒障害、ADHDに関する内容が含まれていないため、授業内容を見直す等、是正すること。
- シラバスについて、全体的に授業計画の記載が過小であるもの、「各科目に含めることが必要な事項」の内容を網羅していないもの等が散見された。様式や記載方法も統一されていないことから、全学的に見直しを図り、修正すること。

3. 教育実習の取組状況

- 教育委員会と連携し、大学の近隣の学校を教育実習先として確保しているほか、全ての教育実習先に担当指導教員が巡回指導を行うなど、丁寧な教育実習指導が行われている状況が確認された。引き続き、地元教育委員会・学校と連携を進め、巡回指導を含め、適切な教育実習指導に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職指導においては、今後も教職を目指す学生全てに対して、一定水準の教職指導が実施されるように、体系的かつ組織的に指導していくための体制を御検討いただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教員を目指す学生が小学校、中学校からの要請に基づき実施する「学生ボランティア補助教員」、市内小学校における現場体験を行う『「先生の助手」体験プログラム』等、積極的に取り組んでおり、評価できる。
- 教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、引き続き、学生が教育実習以外にも学校現場での体験機会を得ることができるよう、地元教育委員会・学校との連携・協働に努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設については、整備・充実していることが確認された。
- 図書については、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領などの行政資料が見当たらず、十分に整備されていると言いたため、配架状況を再検討し、今後充実を努めていただきたい。

7. その他特記事項

特になし。